

平成 27 年 5 月 15 日

平成 27 年度病虫害発生予報第 2 号

長崎県病虫害防除所長

向こう 1 か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) イネミズゾウムシ	並 並	並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類	少 並 並	少 並 並
アスパラガス	アザミウマ類	やや多	やや多
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 - やや多 並 -	並 並 やや多 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシマルカイガラムシ (防除情報第 3 号) ナシヒメシンクイ	少 並 並 並	並 やや多 並 並
なし	黒星病 アブラムシ類	並 やや少	やや多 やや少
ぶどう	黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並	並 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ カンザワハダニ	並 並 並 並 やや少 やや多	並 並 並 並 やや少 やや多

【発生予報】

本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、一部多発圃場がみられたが、食害発生圃場率は46.2%(36.7%)、食害株率は12.6%(4.2%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は88.0%(31.0%)、1株当たり寄生成虫数は0.2頭(0.0頭)であった。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.5%(1.8%)、発生圃場率は3.0%(13.1%)であった。

2. 炭疽病(*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 雨除けビニルが設置可能な圃場は必ずビニルを設置する。

イ 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は1.3%(2.1%)、発生圃場率は18.2%(20.7%)であった。

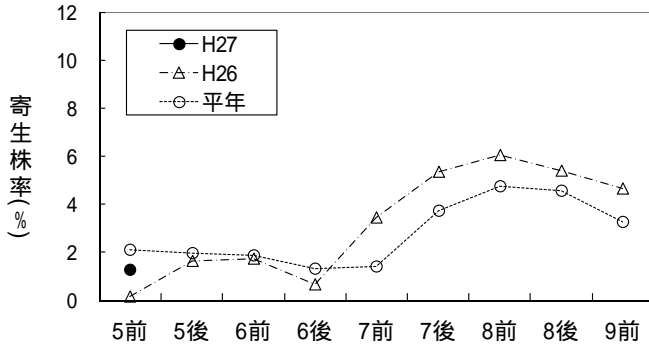


図 ハダニ類 寄生株率の推移

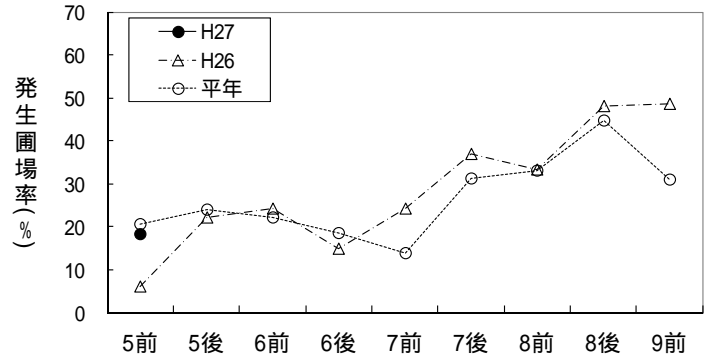


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm x 22.5cmの白色板に5回 x 10ヶ所)は11.5頭(過去8カ年平均5.5頭)、発生圃場率は75.0%(過去8カ年平均74.5%)であった。

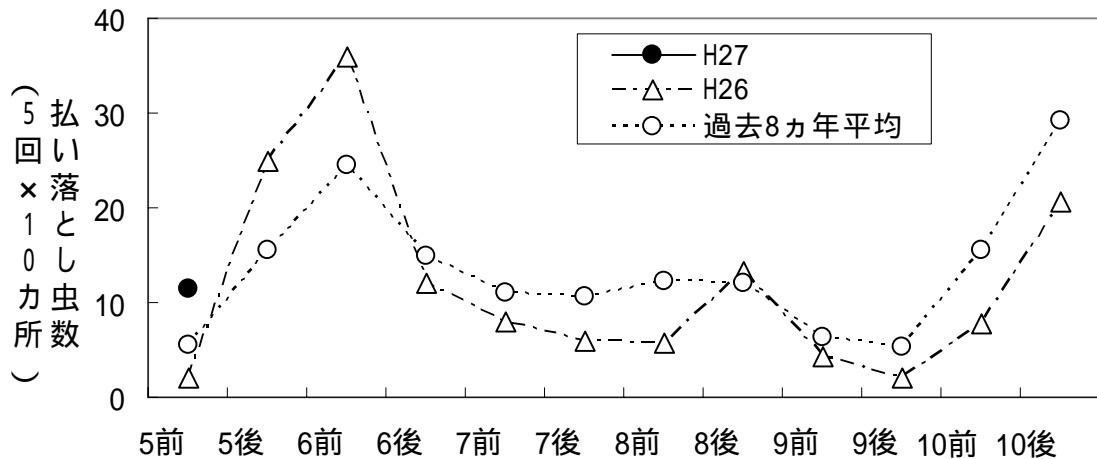


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は2.8%(2.3%)であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

3. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

向こう1ヶ月の降水量は、平年より多い見込みである。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は4.0%(1.3%)、発生圃場率は30.6%(23.8%)であった。なお、一部の地域で発生が多い圃地が認められたものの、4月上旬以降、寄生葉率は減少傾向にある(図)。

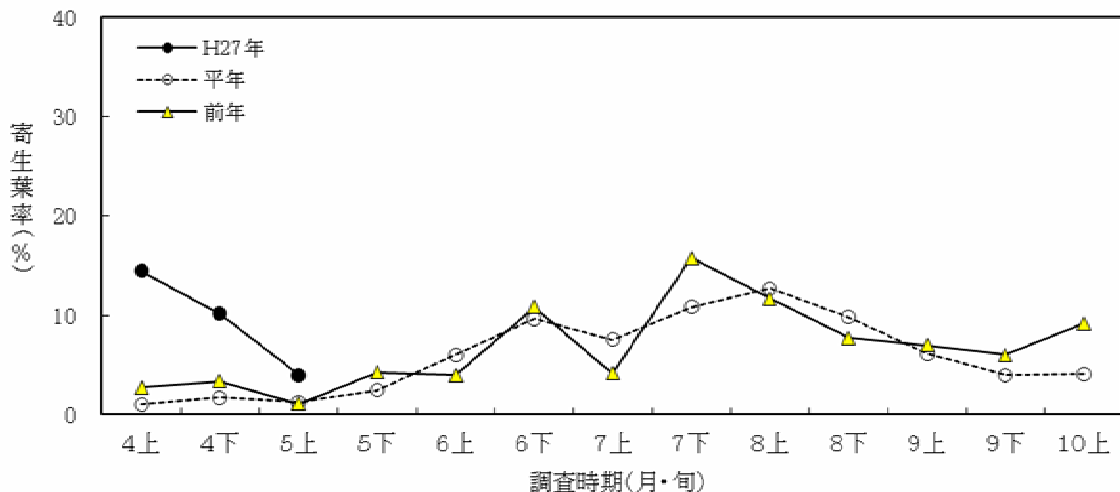


図 ミカンハダニ寄生葉率(巡回調査)

イ 向こう1ヶ月の降水量は、平年より多い見込みである。

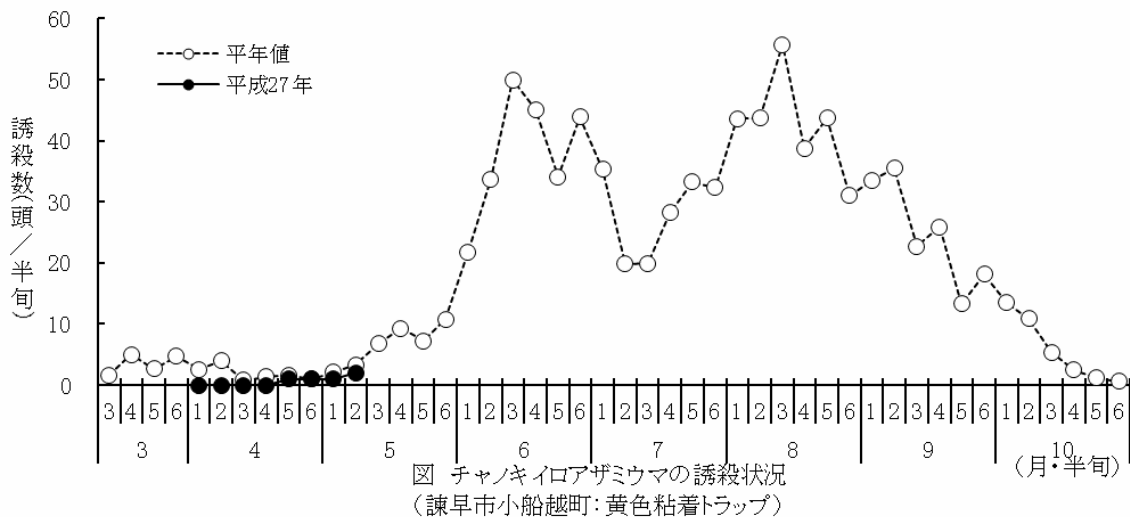
5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2～3世代成虫の発生時期は下表のとおりと予測される。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第2世代	6/4	6/6	6/12	6/5	6/17	6/9
" (前年)	6/3	6/5	6/11	6/5	6/15	-
第3世代	6/27	6/30	7/6	6/28	7/10	7/1
" (前年)	6/28	6/30	7/8	7/1	7/10	-
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2015年5月13日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

- イ 表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。
- ウ 発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。
- エ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

平成26年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査(18園)の結果、ヤノネカイガラムシの寄生果率は0.0%(0.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

下表に示した初発生予測に基づき、使用する薬剤に応じて適期に防除する。

表 ヤノネカイガラムシ初発生の予測日

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	厳原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/6	5/8	5/7	5/6	5/7	5/6	5/9	5/9	5/7	5/9	5/11	5/8
前年予測日	5/5	5/8	5/7	5/6	5/7	5/6	5/9	5/8	5/6	5/9	5/10	-
IGR剤防除日	5/31	6/2	6/1	5/31	6/1	5/31	6/3	6/3	6/1	6/3	6/5	6/2
有機リン剤防除日	6/15	6/17	6/16	6/15	6/16	6/15	6/18	6/18	6/16	6/18	6/20	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1:方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2:初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日～4月30日)を用いて算出し、防除適期はIGR剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。

注3:同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率1.2%、発生圃場率37.0%)。

イ 向こう1ヶ月の降水量は、平年より多い見込みである。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は1.2%(1.7%)、発生圃場率は30.0%(33.8%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は、平年より多い見込みである。

3. ナシマルカイガラムシ

平成27年5月15日付け病害虫発生予察防除情報第3号による。

4. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市、長崎市)の誘殺量は、平年並～やや少ない数値で推移している(図)。

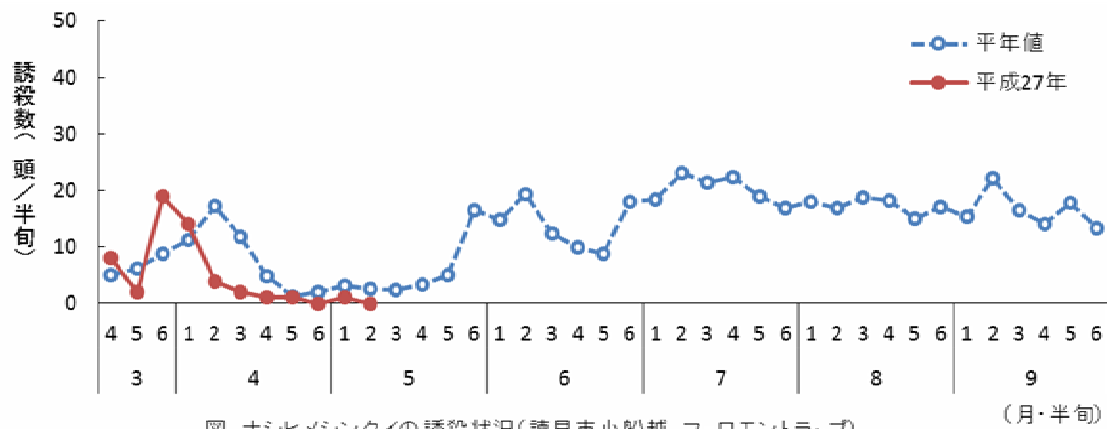


図 ナシメシンクイの誘殺状況(諫早市小船越、フェロモントラップ)

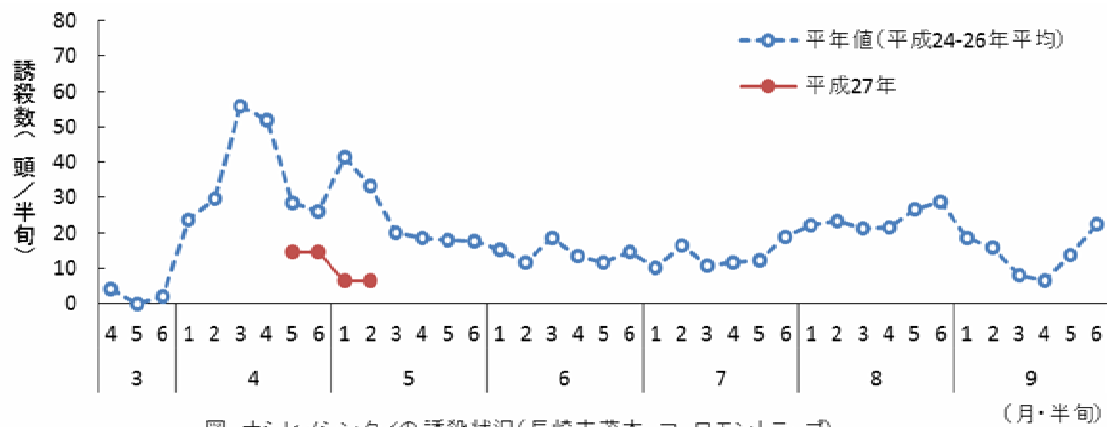


図 ナシメシンクイの誘殺状況(長崎市茂木、フェロモントラップ)

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.5%(0.5%)、発生圃場率は41.7%(29.2%)、発病果率は0.2%(0.2%)、発生圃場率は33.3%(20.4%)であった。

イ 発芽期以降の降水量が平年より多く推移している。

(3) 防除上注意すべき事項

ア スピードスプレーヤで散布する場合は全列走行とし、圃の周囲等で薬液が到達しにくい場所は手散布を併用する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤の連用を避ける。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.2%(1.0%)、発生圃場率は8.3%(27.1%)であった。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は25.0%(8.3%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(被害花房を認めない)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップ調査(諫早市小船越町、多良見町、南島原市有家町及び西海市西彼町)による誘殺数は、平年並で推移している(図)。

イ 県予察圃場(かんきつ、びわ)における調査では、5月2半旬まで発生を認めていない。

ウ 巡回調査および防除員等の報告によると、5月2半旬までに一部のかんきつ園でわずかに発生を認めている。

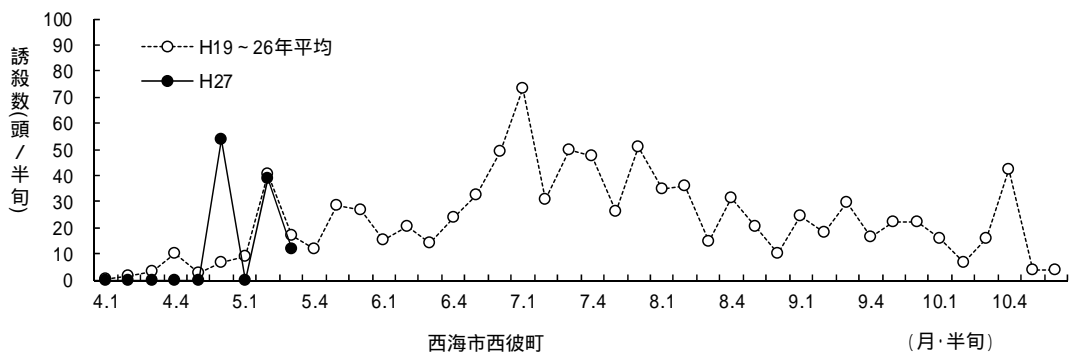
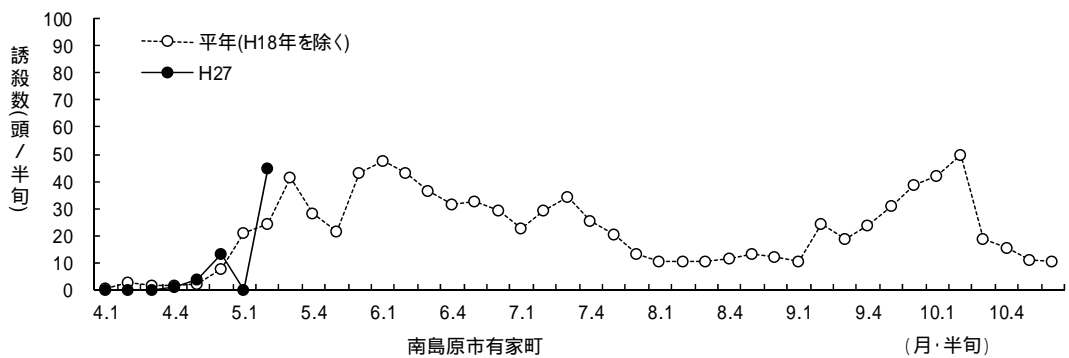
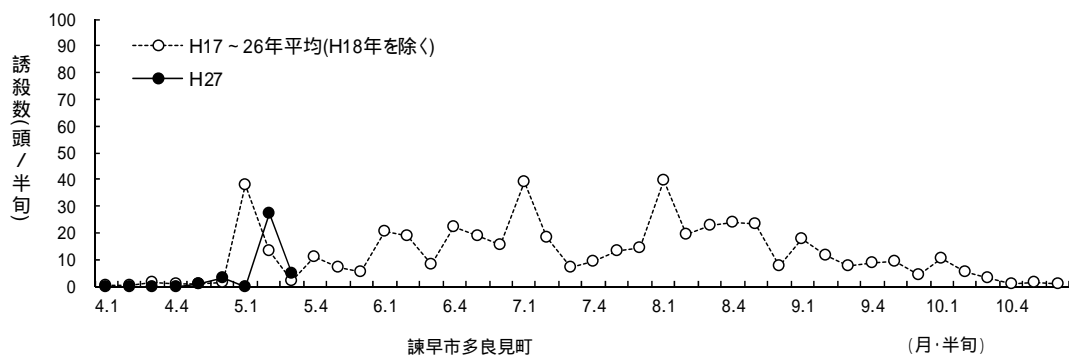
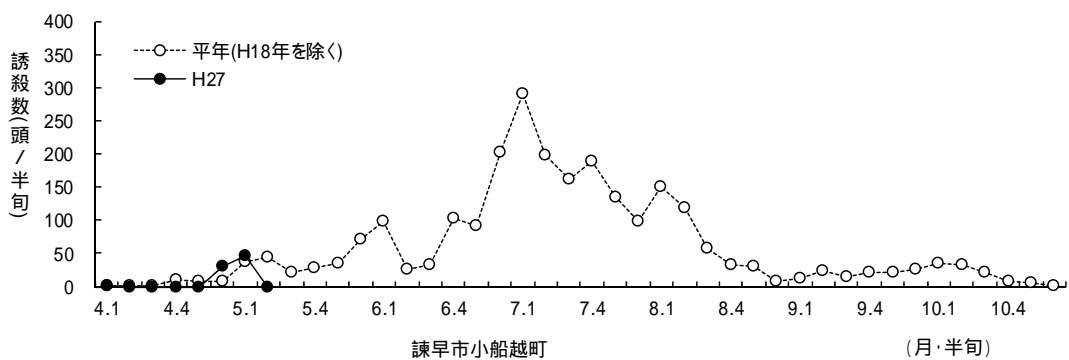


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 飛来時期や飛来数は園により異なるので、こまめに見まわって早期発見に努め、飛来を認めたら早急に防除する。
- イ ハウス栽培では、開口部を防虫網(4mm目以下)で被覆し侵入を防ぐ。既に防虫網を設置済みのハウスでは破損箇所がないか点検し、破損箇所は補修する。
- ウ なし等では袋かけ作業が遅れないようにする。
- エ 収穫期が近い樹種については、使用薬剤の収穫前使用日数に留意して適正に使用する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉数0.0枚、発生圃場率0.5%)。

2. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率2.5%)。

イ フェロモントラップによる誘殺時期(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年よりもやや遅く、誘殺量はほぼ平年並で推移している(図)。

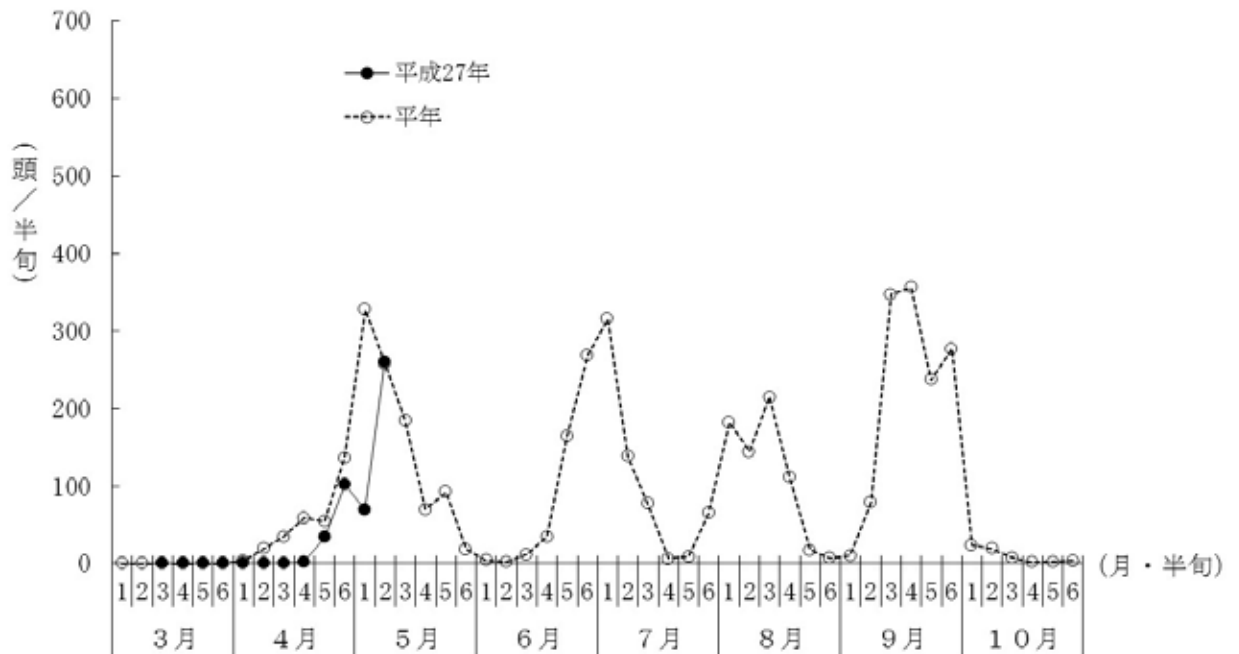


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

3. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.2枚、発生圃場率4.1%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)はほぼ平年並で推移している(図)。

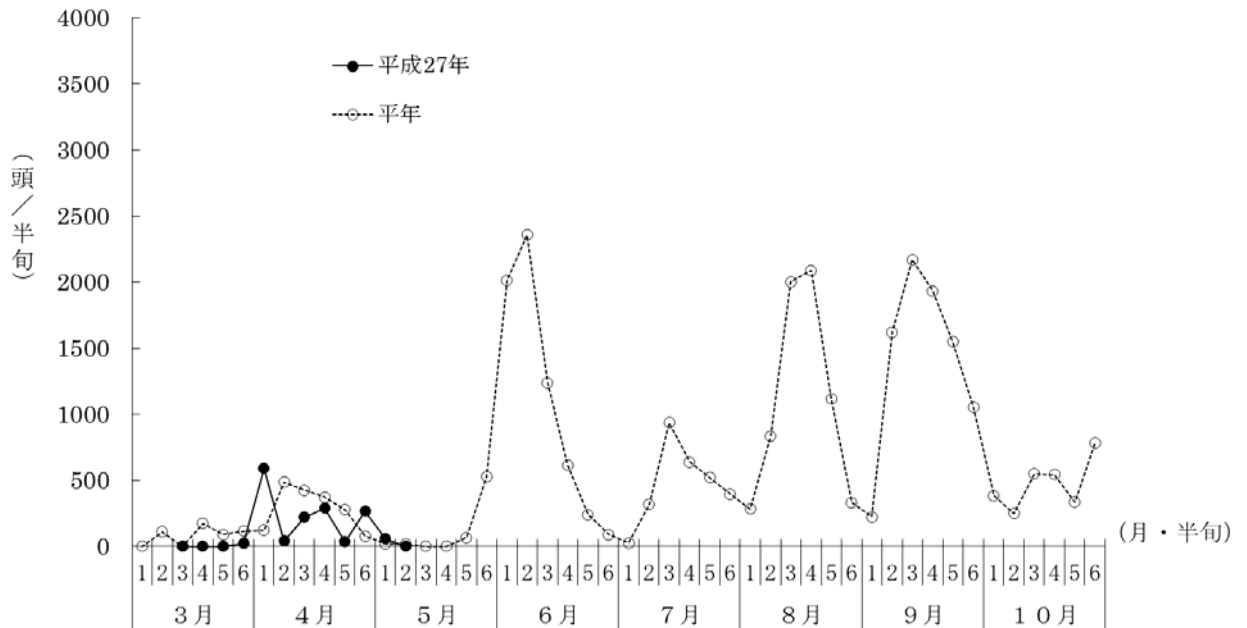


図 チャノホソガの誘殺状況 (東彼杵：フェロモントラップ)

4. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.9頭(1.8頭)、発生圃場率は65.0%(40.0%)であった。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は7.4頭(8.0頭)、発生圃場率は75.0%(56.3%)であった。

6. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は0.3%(5.5%)、発生圃場率は5.0%(37.8%)であった。

7. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は2.9%(1.1%)、発生圃場率は30.0%(18.9%)で、一部多発圃場がみられた。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも十分薬液がかかるよう散布する。

